

2010-2011

WEEKLY REPORT

ROTARY CLUB OF NAGOYA MEINAN

URL <http://www.meinan-rotary.com> E-mail info@meinan-rotary.com



地域を育み、大地をつなぐ

2010-2011 年度 RI 会長 レイ・クリンギンミス

名古屋名南ロータリークラブ

■承認 / 1991年3月8日 ■例会日 / 火曜日・PM6:30 ■例会場 / 名古屋マリオットアソシアホテル
■会長 / 太田 敦士 ■幹事 / 吉木 邦男 ■会報・雑誌・広報委員長 / 三島多恵子
■事務局 / 〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号 名古屋マリオットアソシアホテル 2202号
TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054

第924回

2010年9月21日(火) 晴 第11回

～ 新世代のための月間～

斉唱	手に手つないで
出席	会員 65名 (出席率算入人数 59名) 出席 49名 出席率 83.05% 前々回補填率 96.72% (9月7日分)
ゲスト	南山大学 人文学部 日本文化学科 教授 安田 文吉 氏
ビジター	尼崎中 RC 平井 裕子さん

会長あいさつ

会長 太田 敦士さん

皆さん、こんばんは。

先回のフリートーキング例会で、皆さんから出していただいた意見を紹介したいと思います。

1番多かった意見は、フリートーキング例会の機会を多くして欲しいということで、やはりゆっくり話がしたいということをおっしゃる方が多かったと思います。なるべくこれからはフリートーキング例会の機会を増やすように努めたいと思っています。

2番目は、年代別の席をもっと多くして欲しいという意見でした。他にもくじ引きで席を決めたらどうかとか、入会年次別はどうかとか色々な意見がありましたので、また検討したいと思います。

3番目は、場所を変えてお酒を飲みながらの例会をして欲しいという意見でした。これはゆったり例会ということで、その数を増やせということだと思っています。

4番目は、自らが楽しい例会作りを提案したらどうかという意見でした。是非提案いただいて、それを実現できるように努力したいと思います。

5番目は、8人で1つのテーブルでは話が割れるので、4～5人くらいがまとまるのではないかという意見で、4～5人のミニ懇親会をこれから計画しておりますので、それは期待して下さい。

6番目は、話し合った内容をそれぞれが報告し合ったらどうかという意見でした。これは私としては、また元の例会に戻る気がありますが、検討したいと思います。

その他に、挨拶を気持ちよくする、桃栗会を開催して欲しい、同好会を充実して欲しい、ゆったり例会くらいは喫煙テーブルを作って欲しい、和食を多



くして欲しい、地区大会へ参加した方が良い、他クラブの例会に出席すると色々参考になることがあるという意見がありました。

以上のことを我々としましても充分熟慮させていただいて、皆さんのご期待に添えるように行いたいと思いますので宜しくお願い致します。

幹事報告

幹事 吉木 邦男さん

1. 来週28日はクラブフォーラムです。テーマは「会長賞に向かって」ということで、4大奉仕グループに分けて、グループ毎の席でテーマに沿って語って頂くという設営を考えております。

ニコボックス

- ◆ 安田先生、外部卓話を楽しみにしています。

江上 隆夫さん 宮澤 伸光さん 中村 勝さん
 白銀 義昭さん 堀田 光江さん 白藤 憲雄さん
 坂田 信子さん 中西 芳子さん 林 隆二さん
 鈴木 一博さん 木村 猛さん 山本 誠一さん
 三浦 和人さん 東山 直史さん 太田 敦士さん
 吉木 邦男さん 大橋 さなえさん 木下 福郎さん
 加藤 英敏さん 本多 利郎さん 児島 徳和さん
 犬飼りさ枝さん 牧野 好弘さん 久米 伸治さん
 野々村憲吾さん 安藤 修さん 新原 尚さん
 武藤 正行さん 佐々木元彦さん 浅井 浩さん
 鈴木 清詞さん 伊藤 圭一さん 川辺 清次さん
 生野 房江さん 三島多恵子さん 朝比美和子さん

- ◆ 兵庫県の尼崎中ロータリークラブの平井です。本日はよろしくお願い致します。 平井 裕子さん
- ◆ 尼崎中ロータリーから大学の後輩が来ました。よろしくお願い致します。 山崎 淳さん
- ◆ 細井さん、ゴルフ部会優勝おめでとうございました。そして、あの雨の中を18ホール回られた6人の方、頭が下がります。御苦労様でした。

杉山 隆秀さん

- ◆ 先日はとても楽しい時間ありがとうございました。児島さんお世話になりました。 細井 俊男さん・川村 繁生さん
- ◆ ゴルフ部会遠征、部会長杉山さん、幹事鈴木さん、コーディネーター入谷さん、すばらしい遠征ありがとうございました。 児島 徳和さん・細井 俊男さん・小野 雅之さん

本日合計 55,000円 累計 516,000円

委員会報告

■国際奉仕委員会 委員長 木下 福郎さん

14日第1回目の英会話教室を当ホテル15階のメインバーで行いましたが、非常にうるさく、ホワイトボードも無かったので、聞いて答えるという難しいレッスンになりました。そこで、次回28日のレッスンは場所を変更して、合唱団が練習している愛知県青年会館の第3会議室で午後3時30分～4時30分まで行います。次回からは6名に人数を絞ります。受付に紙が置いてありますので、参加される方はお名前を書いて下さい。

先回は自己紹介の練習をしました。あまり日にちが無いので、台北ミレニアムやホノルルサンセットの方がお見えになったことを想定して実践的に英会話の練習をしていきたいと思っております。台北とホノルルの方は英語で会話されると思いますが、名南の皆さんが誰も話せないと、我々が全く蚊帳の外になってしまいます。ホストとして呼んだ以上はなんとしてもおもてなしをしたいと思っておりますので、是非お時間を作っていただきたいと思っております。

先生はオーストラリア人のケビンさんで、非常に面白い先生です。10月からは毎週火曜日にやる予定にしております。

バナー交換

■尼崎中 RC 平井 裕子さん



外部卓話

■南山大学 人文学部 日本文化学科

教授 安田 文吉氏

テーマ「名古屋開府 400 年と名古屋の底力」

文化には元がありますが、なかなかそこまではテレビや新聞でも言われないということがあります。現象だけを捕らえて色々言っているだけで、何故かということまでは言いません。例えば、河村市長の名古屋弁は汚いと皆さん言いますが、どこか汚いのかは誰も指摘できません。言葉は綺麗汚いではなくて、正確か正確でないかが問題です。河村市長は使い分けをしておりまして、テレビ等不特定多数の人に言う場合は「聞いてちょ～だい」と「だい」が付きます。この使い分けが大事であります。

名古屋城に金の鯨が乗っていることについて、名古屋人は派手だから乗せたと言われますが、これは



とんでもない話で、これに乗せたのは徳川家康です。徳川家康が何故金の鯨を天守閣に乗せたかということの方が大事です。名古屋城の金具は全部金でできており、別名「金城」と言います。何故そうしたかということが一番大事です。

家康は清洲の神社仏閣、町人、庶民含めほとんど名古屋へ持ってくるわけです。それは結論を言いますと、名古屋というのは非常に豊かなところで、山の幸、海の幸、野の幸に恵まれたところがこの尾張であるからです。古代から生産性が非常に高い土地であったということです。豊かなので人の心が和むということがずっとありました。そこに目をつけたのが中世末期では今川氏で、今川義元の父今川氏親が大永年間に那古野城を造ります。その後を襲ったのが織田信秀、信長親子でありました。信長はそれから清洲城へ参りました。やがて関ヶ原の合戦で徳川方が勝利を収めます。その後徳川家康は、清洲を名古屋に戻してここで城を治めることを考えたわけです。戦が済んでこれからは平和な世の中になる、その時に何が大事かという経済活動であるということで、そのために政権分離ということを考えました。兄秀忠は江戸で政治を、弟忠吉は名古屋で経済をとということで、その拠点のシンボルとして名古屋城天守閣には金の鯨をあげたということだと思いません。

家康が目を付けたこの豊かさについて今どのように考えるかと言うと、それを証明するものの1つが方言、名古屋弁であります。その土地の土地柄を理解するには方言がかなり確かな材料になります。名古屋弁には「さま」が付きます。「おじさま、おばさま、にいさま、ねえさま、おっさま、文ちゃん」です。また、名古屋弁には古語が生きています。例えば、「お（措）いてちょうだやあ」これは「やめてほしい」という意味です。「米をか（浸・漉）してちょうだやあ」これは「米をとぐ」という意味で、この言葉は鎌倉時代に使われた言葉です。名古屋弁には京言葉が入っています。「ようけ（余慶?）」「ぎょうさん（仰山）」等です。松永貞徳「徒然草慰草」で江戸時代の初めに信長、秀吉が京都にやってきたので、京都の言葉が乱れたということが書いてあります。つまり名古屋弁が京都弁に入ったということです。それより以前に京都弁は名古屋弁に入っているのですが…。それから50年後に荒井白石「東雅」では名古屋弁と京都弁はお互いに交流していると言っています。その他名古屋弁にはあそばせ言葉として「ごまやあすばせ」「いらやあすばせ」、武家言葉として「ご無礼します」があります。

色々な事を考えますと、名古屋弁は丁寧でやわらかいと言えます。「なも」が付くと名古屋弁になりますが非常に語尾がやわらかです。相手を大事にする、大らかである、温かみがあるというのが名古屋弁の特長です。また、古語が残っているということは、ここが変わっていないということであり、変わっていないということは変わらなくて良いということでもあります。名古屋は豊かな所なので、変わらなくても良いのです。

話は家康に戻りますが、家康が考えた経済の拠点というのは都に近い方がやりやすいということですから、ところが政治はなるべく天皇家から離れた方が

良いので江戸の方が良いのです。両方考えた時に、日本の真ん中で、生産性の高い土地ということで名古屋となりました。これが家康の考えた政権分離策だと私は考えております。そのための金の鯨であり、金の金具ということになります。熱田台地の北の一番高いところに城を造って、南の一番低いところに熱田神宮があります。尾根伝いに造ったのが本町通り（美濃路）です。

これを更に発展させたのが宗春であります。宗春の基本政策理念は「温知政要」二十一箇条です。これには大事なことが2つ書かれていて、1つは法度は必要最小限で後はその人の人間性に任せるべきであるということです。もう1つは打首・獄門というのはよほど確かな証拠がない限りはやってはいけないということです。そして、遊ぶ時には遊び、働く時には一生懸命働け、節約が一番大事だけれども、質素儉約だけでは能が無いから生かして使うことを考えるというのが宗春の考え方です。また、地場産業の保護育成と販路の拡大に努めて収入を増やし、その結果町人が実力をつけました。これが大事でありました。家康が経済活動の拠点として作り、それを宗春が促進して町人が実力を蓄え、名古屋の町人は名古屋商人として実力を発揮する時代になるのが宗春以降であります。私はこのことを強く感じておりまして今日のお話の内容になりました。ありがとうございました。

第 926 回例会 (10月6日) のご案内

12:30 ~ 13:30

名古屋観光ホテル 3F 那古の間 於

ガバナー公式訪問